

本日は、宮崎県自衛隊協力会青年部宮崎支部総会のご案内を差し上げましたところ、年度末の慌ただしい中にも関わりませず、荒木新田原基地司令を始め、林宮崎地方協力本部長、藤原四十三連隊長及び下森青年部会長のご臨席を賜り、支部会員を代表して、衷心より厚く御礼申し上げます。

また宮崎支部も、新たな支部足以来丸九年経過し、その間、陸海空各自衛隊や、宮崎支部会員の皆様には、当支部運営に当たり様々なご協力を賜り、この場をお借りして重ねての感謝を申し上げます。

さて昨年三月十一日の東日本大震災では、国家の非常事態に全く対応できず、「想定外」を連発する民主党政権の哀れな姿が露呈され、我々国民が正に恐れていたいくつかの事柄が、悪夢の如き現実と相成りました。特に福島原発事故に関しては菅政権の失態が今徐々に明らかになり、又尖閣諸島、北方四島、竹島、拉致問題等も殆ど手付かずの状態です。

ところで自衛隊は、敵国等が武力で日本の主権を脅かす事態が発生した際、一番に現場に駆けつけ、その敵と対峙しなければならぬ組織なもので「想定外」と云う言葉を、自衛官は決して口には出せません。

私の敬愛する君塚陸幕長が、当時東北方面総監で陸海空十万人を統率する統合任務部隊(JTF)指揮官に就任した際、「我々の前に道はない。獣道すらない。でも後ろには道が出来る。その道の善し悪しは後世の人達に判断してもらうしかない。そうであれば自らの考えを信じてやっていこう」と、部下に繰り返した話は皆さんご存じかと思えます。

君塚閣下は私の一つ年長で、比べること自体がおこがましいのですが、日常訓練や武人としての覚悟が非常事態に目映いばかりの光彩を放ち、結果行動となって現れ、多くの部下もこの指揮官の為ならばと命懸けで厳しい任務にも、肅々と付き従うのだと一人勝手に推察するところです。

当時枝野長官の模範解答のようで支離滅裂な原発事故説明は「兵は巧遅より拙速を尊ぶ」の古諺を知らぬ故と思われませんが、米陸軍パットン将軍は「最善を求める慎重さは最も恐ろしい敵である。戦争に完璧などはなく、あるものは常に概ね良好のみだ」とも諭されました。

七十年前のパットン将軍と君塚閣下の思考回路には明らかな共通点があり、この辺りが国家非常時の想定をしていない文官の限界のようです。このような状況の中で、今年も尚一層「国民と自衛隊の架け橋」としての当青年部会の役割が、重要になろうかと存じます。

今宵は年に一度の支部総会懇親会で互いに胸襟を開き、日頃の思いの丈を大いに語り合って戴けたならば、これに勝る幸せはありません。

結びに本日も参会の皆様を祈念申し上げ、甚だ簡単卒爾で誠にご要を得ませんが、本会冒頭の支部長挨拶とさせて戴きます。

平成二十四年三月二日

宮崎県防衛協会青年部会

宮崎支部

支部長 小倉和彦

